

あさひの日だまり

～「あさひ運営委員会」がありました～

開かれた学校を目指して

第3回の[あさひ運営委員会]が水曜日に開催されました。あさひ運営委員会のメンバーは、正副PTA会長様(3名)。学校評議員様(5名)。各地区の地域コーディネーター様(4名)。辰野町教育委員会様(1名)からなっており、13名の方々をお願いしています。

現在各学校は法律で「コミュニティースクール」の機能を果たさなくてはならないと規定されています。「コミュニティースクール」においては、学校運営の方向がそれでよいか、修正が必要かを地域の方の意見を聞きながら定めていきます。また、地域の人材を大切な地域の宝と考えて、授業などの教育活動の場で活躍していただきます。また、学校の子どもたちや職員も、地域の大切な人材として、地域の行事等で活躍の場をいただきます。簡単に言うと、地域の公民館と同じように、「学校」も、地域の学校となくなるとはいけないという考え方です。その際、学校と地域を結ぶ大切な役割を果たして下さるのが、「あさひ運営委員会」の皆様です。



当日は子どもたちの授業の様子を見ていただいた後運営委員会を持ちました。その席で、今年度の学校の主な活動の様子をお知らせし、来年度の学校運営の方向をお示しました。最後に、運営委員の皆様お一人お一人からご意見をいただきました。いただいたご意見を掲載いたします。

当日は子どもたちの授業の様子を見ていただいた後運営委員会を持ちました。その席で、今年度の学校の主な活動の様子をお知らせし、来年度の学校運営の方向をお示しました。最後に、運営委員の皆様お一人お一人からご意見をいただきました。いただいたご意見を掲載いたします。

- ・「学校目標」がみんなにわかるように大きな字で掲示されていた。
- ・職員の学校自己評価が、みなさん辛いように思う。子どもたちはみんな楽しそうにやっていた。うるさいくらいのところもあったが楽しそうだった。
- ・コロナだからできないんじゃないかと、何ができるかを考えてくれた。カレー会の替わりの児童会の行事に招いてもらえて、私も子どもたちも楽しかったし、子どもたちののびる機会になった。これからも、自分たちで考えてできるように促してほしい。
- ・明るく楽しそうだった。音楽の授業を見せてもらったが、6年生の卒業式の歌が今から楽しみ。
- ・コロナやインフルで自分で思うようにいかないことがある。その陰で悲しい思いをしている子どももいると思う。子どもたちには、「悲しい」「寂しい」そして「優しさ」そういった気持ちの部分も含めて学んでほしい。
- ・学年を追うごとに子供たちは成長していて、先生方のおかげだと思う。
- ・校長の言う「挑戦できる場」を作ってあげることが子どもたちにとっては一番大事。その時に大切なことは、先生と子どもたちが信頼し合っていること。「この先生が言うならやってみよう！」という関係を作ってほしい。
- ・先生も楽しく、子どもたちはワクワクする、そういう学校を創って欲しい。
- ・自分は一人で生きていかれるという錯覚を起こしがちだが、そうではないんだということを教えてあげて欲しい。
- ・子どもたちの能力はもっとあると思う。授業を見ていると、大人たちがそこにブレーキをかけてしまっている部分がありはしないか。子どもたちの能力をもっと信じてあげたい。
- ・1回目の運営委員会の時の参観では寝ている子もいた。今回はそういう子はいなかった。体力がついてきたということもあるのだろうと思う。
- ・子どもたちの自己肯定感を一番に伸ばしてくれるのは、やはり家庭だと思う。「かけがえのない大切な人間なんだ」と思えるように家庭ではしてほしい。中学校へ進学すると、今度は、家庭だけではなく、友だちや先生などの社会

的な関係の中で認められたいと思うようになる。小学生では、家庭が子どもを大切にし、信じてあげて欲しい。

- ・自分の子どもがいたころは、学校が一番地域に開かれていたころだったように思う。お茶を習ったり、ゆめ山を地域の方に作ってもらい、子どもたちも自分たちのあそび場だということで一生懸命だった。畑で白菜を作って韓国の方を招いてキムチ漬けを作ったりもした。キムチを渡してお礼を言われた子どもたちはすごく喜んでいて。そういう子どもたちの姿はとても輝いていた。
- ・6年生の「戦争と人々の暮らし」という授業に興味があって参観させてもらった。沖縄戦のことを若い先生が一生懸命にやっていて、なるほどな～と思った。現在の状況を見ても戦争は絶対に起こしてはいけない。命をたいせつに、友だちを大切にということが一番にして教育を進めて欲しい。校長の学校経営にもそのことを据えて欲しい。
- ・「挑戦」というのは、ある子にとっては小さなことでも、ある子にとっては大きかったりもする。一人の挑戦を周りのみんなが支えるような挑戦をさせてあげて欲しい。上手にいかない子もいるので、支えてあげて欲しい。
- ・コロナに感染したときも、リモートで授業をしてくれて、時代が進歩していて良かったと思う。家にずっといて気が滅入るときもあったが、休み時間も教室の様子が見られるようにしてくれてその配慮が嬉しかった。
- ・中学校へ早くいきたいな～と言っている。そういう言葉が出るということは小学校での生活が充実していたということだと思う。
- ・自宅待機最中に、先生方からリモートでメッセージをいただけたことが嬉しかった。
- ・ボランティアの皆様姿を見ていると、子どもたちが本当に地域の人たちに大切にされながら育まれている様子がわかり、本当に感謝です。
- ・先生方のおかげで、一人ひとりの子どもたちがとても大切にされていて、子どもたちがとてもものびのびとしているな～と思います。

多くの子どもたちが、明るく楽しそうに生活しているという意見をいただきました。さっそく職員連絡会で先生方にそのことを伝えました。「先生方のおかげで子どもたちが安心して学校生活を楽しんでいます。本当に先生方に感謝です」とお話ししました。先生方が安心して楽しい気持ちで子どもたちの前に立てなくては、子どもたちが「学校って楽しい」とは思えないのではないかと考えます。先生方にそういう心持でお仕事をしていただけるように心を配るのは私の仕事です。そう考えると子どもたちの楽しい学校生活を保障するのは私の責任ということにもなります。思わず背筋がのびます。今回、運営委員の皆様がたくさん励ましをいただきました。その言葉を忘れることなく、そのお言葉を力にして、さらに一層、先生方と「楽しい」学校創りに励みたいと思います。

～そり教室とスケート教室がありました～

楽しく行ってきました



2、3年生はスケート教室でした。初めは、スケート靴を履いて座り込んだり立ってない児童もいました。「こりや大変だ」と思って見ていましたが、指導者の方の上手な手ほどきと、本人の頑張りで、最後はリンクを自力でぐるぐる回れるようになりました。1年生はソリ教室でした。ゲレンデを何度も何度も駆け上がり、「楽しい～」と言いながら夢中で滑っていました。友達と連を組んだり、3人乗りで滑ってみたり。私も児童に声をかけてもらって何度も一緒に滑りました。おかげで1日でだいぶ体重が減りました。